

祭 事 暦

11月1日・20日 午前8時30分
 月 次 祭
 11月3日 午前8時30分
 明 治 祭
 11月15日
 七 五 三 祭
 11月23日 午前10時
 新 嘗 祭



発行所
 寒川神社社務所

〒253-0195
 神奈川県
 高座郡寒川町宮山3916
 電話 代表0467(75)0004

編集者 水谷智賢
 印刷所 樹さんこうどう

平成二十二年^{かのえとら}庚寅年

寒川神社 迎春干支ねぶた



題名「閑運^{こしきゆうこう}虎視躬行」

作：千葉作龍^{さくりゅう}（青森ねぶた師）



この時期境内は、七五三詣や菊花展等の恒例の行事と木々の色の移り変わりで、色あてやかにあります。雑多な色合いが交ざり合いますが、自然と気持ちりが和む美しい光景です。その中に、色とりどりの和装の女性の姿も見受けられます。ある礼法の先生は「女性は美しくなるために大きな努力を続けるが、上手に化粧しても、高価な衣装や宝石を身につけても、ぞんざいな言葉を使い、服装がだらしない協調性がなければ真の美しい人にはなれない。思いやりの愛の心、感性を高くむ美の心、尊敬と感謝を表す礼の心、自然や人と調和する和の心が必要である」と話されます。「礼」という文字は「イヤ」・「レイ」と読みます。「イヤ」は「イヤマウ、ウヤマウ（敬こ）で、「レイ」は「お礼」「感謝」の意味をもっています。また、旧字の「禮」は自然の恵みを高^あ坏^へにのせ、神様に感謝をささげる姿を表し、神様への御礼を表現する文字とされています。つづいて先生は「自然や相手を尊敬し、感謝の心が芽生えれば自らをへりくだり、人をたて思いやりの心を持つことができます。これが（礼）の基本である」と話されます。確かに、万物に対する感謝の念を通じて自らを謙虚に、生命を尊ぶ姿が「礼」となっているものであります。男女問わず私たちが日常の立居振舞のその姿も、日本人に古くから培われてきたこの「愛・美・礼・和」の心が源にあると痛感した次第です。（鈴）



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

今月の祭事

明治祭

十一月三日(火)

明治天皇のお誕生日にあたるこの日に、近代日本の建設発展にご尽力なされました明治天皇の聖徳大業を仰ぎ、皇室の弥栄と国家国民の繁栄をお祈りします。

七五三祭

十一月十五日(日)

男女児とも三歳を髪置、男児五歳を袴着、女児七歳を帯解の祝いとして神社にお参りします。当社社ではこの日に限らず、七五三祝のご祈禱を毎日ご奉仕致しております。

新嘗祭

十一月二十三日(月)

農作物や製品等を御神前にお供えし、本年の五穀豊穡や産業の発展に対し感謝申し上げる祭典です。

奉納品承ります

皆様方の報恩感謝の真心を、御神前にお取次ぎ申し上げます。
米・酒・野菜・果物・花・魚・菓子等の奉納を承り、お名前を記名し御神前にお供えいたします。
尚、お酒の奉納(奉献酒)は、一升 二千元より思召にてお受けいたします。

神嘗奉祝祭齋行



去る十月十七日、伊勢の神宮では、陛下御自らお育てになられた稲穂を皇祖天照大御神に奉り、全国の農家からも数多くの稲穂が御神前に奉献され、一年間のご守護への感謝の心を捧げるとともに、皇室の弥栄・五穀の豊穡・国家隆昌並びに国民の平安を祈念する神嘗祭が齋行されました。
当神社におきましても、この神嘗祭を奉祝した祭典を神嘗祭当日午前十一時、厳粛に執り行いました。

赤社宮山神社例祭齋行



町内を神輿渡御
九月二十九日、秋雨が時折降る中、宮山神社の例祭が厳かに齋行されました。当日は、多くの氏子崇敬者が参列のもと、日頃の神恩感謝と町内の安全が祈念されました。
十月四日には神幸祭も行われ、宮山町内を神輿が練り歩き、賑わいを見せておりました。この他にも神社前では様々な催し物が行われ、境内は一日中お祭り気分が盛り上がりました

九月・十月の祭事報告

相模中央氏子総代会 総会を開催



神奈川県相模中央氏子総代会定期総会が、十月六日寒川神社参集殿に於いて開催されました。この総会には管内神社の役員総代約五百名が出席し、会務報告や神社功労者表彰等がおこなわれました。
記念講演では、旧皇族・竹田家に生まれ現在は慶應義塾大学講師の竹田恒泰先生が「皇室の弥栄」と題して、万世一系の天皇を中心とした國造りについて力強く述べられ、拝聴した全員が深い感銘を受けました。

御本殿周辺整備事業奉賛者芳名

御本殿御造営竣工十周年記念事業
左記の方々より赤誠溢れるご奉賛を賜りました。
誌上より厚く御礼申し上げます。

- 【平成二十一年九月奉賛者】(順不同・敬称略)
- 十万円 寒川神社職工奉仕会 高座郡寒川町
- 〃 北村工務店 高座郡寒川町
- 〃 (有)壁島工務店 高座郡寒川町
- 〃 野村歌納子 川崎市宮前区
- 四万円 山川朗 川崎市宮前区
- 二万円 伴誠 静岡県富士市
- 〃 米山和男 東京都町田市

連載

遷宮講座

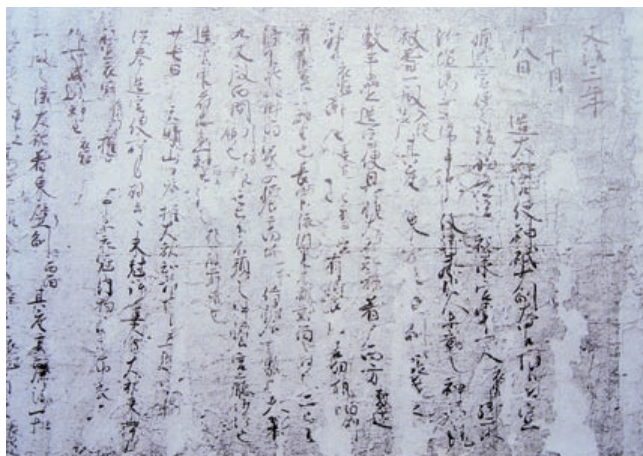


國學院大學
神道文化学部教授
神道学博士

なかにしまさゆき
中西正幸

第七回 役夫工米

「唯一神明造」と称される御正殿は、萱草・平入・高床という構造をもち、四方に大床を廻らし御階・高欄を取り付けて、奈良時代の中期以降、さしたる変化はみられない。造太神宮使という官使が造営工事を担当し、御装束神宝を伊勢に届ける神宝使、あるいは新宮奉遷に神霊を移しまつる奉遷使などの諸使が遣わされた。ところが古代国家の律令体制が動揺し、平安中期から神税の徴収が滞り、遷宮費の調達が次第に困難になってきた。窮余の方策として、殿舎を棟割りで数ヶ国で分担したり、或いは一般を個人的に引き受けたり、さらにはやり遂げた暁には官職を約束するなど、さまざまな方法が試みられた。そうした古代から中世初めにかけて、前後十八回にわたる遷宮を概観した「遷宮例文」には、遷宮執行をめざして色々と試行した有様が語られている。



『建久元年内宮遷宮記』巻頭 神宮文庫所蔵

中世初めに「太神宮役夫工米」という遷宮費が調達された。造営工事に従事する人夫賃を、全国的に課税するという方針のもと、建久二年（一一九一）に後鳥羽上皇が「諸国遍滿の経営」と意義づけられ、源頼朝が全国の守護・地頭にその実行を布令した。最古の遷宮記録といふべき「建久元年内宮遷宮記」は、「文治三年記」とも称され、書中に新時代への意欲にみちた内容が伺える。当初は適切に励行されていたが、減免をねがう荘園が次第に増大してゆく状況下、室町期に



外宮川原祓三ッ石図（両宮遷宮旧式祭典図）

は衰退していった。永享六年（一四三四）の外宮遷宮をもって、この税制は終息してしまつた。限りなく悲しいかぎりである。

海外貿易の利潤をもつて、遷宮費に充たせようと、宝徳三年（一四五二）の大船団に「伊勢法楽船」を加えた。社寺船では天竜寺や住吉神社の前例がみられるが、結果的には積荷の大暴落によって失敗してしまつた。しかしながら歴代の足利將軍は神宮への崇敬心もあつく、参詣において三代・義満が前後九回、四代・義持が十二回、六代・義教が八回に及んでいる。寛正三年（一四六二）の内宮遷宮は、苦しい財政の中から辛うじて造営料を支弁した、まさに中世最後の式年遷宮であつた。応仁元年（一四六七）に持ち上がる大乱に巻き込まれる苛烈な世相下、仮殿につぐ仮殿がうち続き、百二十余年にわたつて式年遷宮は中絶されてしまつたのである。

根岸(上)	正木 武	殿外六三
根岸(中)	金子 泰夫	殿外一
根岸(下)	北野 武	殿外五八
オリブの丘	楠原 敏彦	殿外五
旭(東)	長田 佳史	殿外三九
旭(西)	高谷 仁	殿外一七
上合	福岡 清敬	殿外四九
中里(上)	木村 貴	殿外三八
中里(下)	山岡 敬市	殿外四三
中里(河原)	川部 武一	殿外二七
中里(ザン)	高浜 章夫	殿外二
馬場	米山 菊雄	殿外二七
雷	内田 哲広	殿外二七
下	笠石 立志	殿外六六
宮山南	濱田 敏美	殿外一六
森下	竹内 勝司	殿
鳥井戸2	森口 恭一	殿外一〇
富士見町	石井 康之	殿外三

仲町2	龜山 妙子	殿外四
中島1	藤澤 清	殿
西1	千葉 文一	殿外一三
西2A	入澤 博己	殿外二
新道	北野 喜好	殿外九
両替	吉田 和正	殿
笠谷	府川 宗吉	殿

平成二十一年
例祭神徳奉賛金奉賛者芳名

平成二十一年の例祭肅行にあたり、氏子崇敬者各位より多くの神徳奉賛金をご奉納いただき厚く御礼申し上げます。
ご奉納賜りました奉賛金は、例祭当日ご神前にお供えし、各位の家運隆昌・生業繁栄を祈念申し上げます。

東6	小杉 勝治	殿外三
小町屋}3	高橋 博	殿外二一
東1	千葉 文一	殿外一三
西2A	入澤 博己	殿外二
新道	北野 喜好	殿外九
両替	吉田 和正	殿
笠谷	府川 宗吉	殿

原2	三澤 誠	殿外五
原3	大久保 芳正	殿外二
東1	三澤 敬機	殿外六
入町	栗田 馨	殿外六
南町	和田 弘務	殿
菅谷台	奥津 肇	殿外九
東	十河 定勝	殿外九
大村東	磯川 彰	殿外一三
大村西	佐藤 正志	殿外二〇
才戸東	大阿久 和夫	殿外五
才戸西	渡部 真弘	殿外一七
原(南)	脇 敏勝	殿外一四
原(北)	櫻村 久雄	殿外一〇
入町・新町	尾崎 幹夫	殿外五
南町	秋澤 三男	殿外二二
西町	池谷 仁	殿外二七
川端東	久保 勝	殿外二
川端(西)	皆川 祐二	殿外一七

桜町(上)	繁田 善治	殿外二
桜町(中)	芝本 繁	殿外二
桜町(下)	池田 礼子	殿外三
士天(第二)	高橋 榮男	殿
上大曲	中島 勝則	殿外三三
下大曲	竹内 實	殿外一三
東町	冠 富士夫	殿外一六
宿町	原田 一三	殿外三一
西町	入澤 英文	殿外三五
南町	舛水 寿正	殿外二九
神之倉	伊藤 房善	殿外一七
小動	市川 幹雄	殿外三七
墨東寒川講	伊藤 國雄	殿外五
寒川社務会	澤津 壽道	殿
八手奉仕講	今治 英而	殿外三九
【匿名】		五〇、〇〇〇円

平成二十一年

例祭献灯者芳名

平成二十一年の例祭斎行にあたり、氏子崇敬者各位より多数の奉祝提灯のご掲灯をいただき厚く御礼申し上げます。

ご掲灯賜りました提灯は太鼓橋前の新設された献灯枠に掲灯し、献灯奉告祭において各位のご繁栄とご健勝を祈念申し上げます。

- 横溝隆義 (株)イソダ
- 市川元久 寿重機(株)
- 大川静男 河西工業(株)
- 関根 晃 大黒屋製菓
- (株)市川 灌川園茶舗
- 神恵苑 (株)鈴野農機
- 長嶋園 (株)オーカワ
- 豊月堂 大村紙業(株)
- (株)阿部 (株)フジサワ
- (株)青葉 (株)カナリヤ
- (株)秋江 (株)丸井紙店
- 松乃鮪 (株)マルシゲ
- 麻里衣 (株)青木商事
- (株)金子 (株)山商事(株)
- (株)高田 (株)北岡本店
- 生長園 北村工務店
- 和楽(株) (株)三沢米店
- (株)二幸 山一工業(株)
- 金子 昭 相模興業(株)
- 寒川病院 佐藤建具店
- 戸塚米店 (株)寒川建材
- 東木材(株) (株)シノハラ
- 露木生花 川本工業(株)
- 酒井米男 高橋竹材店
- 天野義克 (株)コーメー
- (株)プロム 杉山物産(株)
- 百崎製菓(株)
- 齋藤硝子店
- (株)田中写真
- (株)天幸総建
- 中沢運輸(株)
- (株)サンユー
- 松井建設(株)
- (株)フルモト
- (株)ヒラボウ
- 熊澤酒造(株)
- 昭和興産(株)
- 日本精麦(株)
- 丸高工業(株)
- 日本消毒(株)
- (株)菊地土建
- 村松商事(株)
- (株)植藤造園
- (株)神奈川中宣
- (株)力ネヤ商会
- (株)壁島工務店
- (株)喜久屋酒店
- (株)飯田材木店
- (株)金庫屋商店
- (株)工房えむま
- 寒川町商会
- ほりむら薬局
- 下里自動車(株)
- 湘南信用金庫
- (株)鈴木製餅所
- (株)中島鉄工所
- 山上工務店
- (株)アイネット
- (株)竹中工務店
- (株)落雁諸江屋
- (株)湘南ライン
- (株)内野不動産
- (株)松いち食品
- (株)寒川製材所
- (株)アイアール
- (株)シーボニア
- (株)須藤製作所
- (株)香川第一交通
- (株)ウスイ植物園
- こみね化粧品店
- (株)さがみや菓舗
- (株)サダコ美容室
- (株)金子建材土木
- 寒川町観光協会
- (株)古山看板塗装
- ヨシカワ洋品店
- (株)破魔矢奉製所
- (株)長谷川製作所
- 鈴木徹章工芸(株)
- (株)山武湘南工場
- (株)湘南電機工事
- 日本造園設計(株)
- 横浜貨物総合(株)
- 株さんこうどう
- 総合警備保障(株)
- 千寿会きくの郷
- 中野設計工務(株)
- (株)大島寅次郎商店
- (株)寒川公衆衛生社
- (株)さいか屋藤沢店
- 長嶋福タルマ物産
- (株)晃和ディスプレイ
- (株)協和クリーニング
- (株)サンエーサンクス
- (株)Fレプランニング
- さがみ農業協同組合
- レンゴ(株)湘南工場
- (株)横浜銀行茅ヶ崎支店
- 寒川ロータリークラブ
- (株)ダイワ・エム・ティ
- (株)ノブ・リライアブル
- ロワジュールホテル厚木
- 株ヒタロジスティックス
- 門前だんご茶屋九五郎庵
- (株)竹澤古典建築設計事務所
- 歌謡スタジオオレスポアル
- (株)湘南ビューティカルチュア
- (株)三井住友銀行藤沢法人営業部
- 旭ファイバークラス(株)湘南工場
- (株)アサヒファシリティズ横浜支店
- (株)アサヒファーマシー - 之宮薬局
- コカ・コーラセントラルジャパン(株)
- 日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所

(順不同・敬称略)

神嶽山神苑

歳時記

秋もいよいよ深まると、御社頭は七五三詣の家族連れで賑わい、菊花展の開催で色とりどりの菊の花が回廊を埋め尽くします。

さて、神苑は朝夕の冷え込みも強く、気候も落ち着いたせいか「難波の小池」から湧き出る御神水も深く澄み渡り、庭園は池底まで透き通るほど清らかな水を貯えております。石舞台には秋の七草の一つである藤袴(フジバカマ)が未だに咲き、石路(ツワブキ)の黄色い花が神嶽山周辺に据えられた吉野石に映えます。今頃になると苑路周辺では吉祥草(キチジョウソウ)



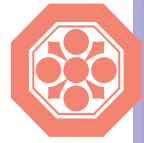
吉祥草

の花が見られます。吉祥草はユリ科の宿根草で晩秋に淡い紫色の花を咲かせます。一面に咲くというよりもポツリポツリとその年に限られた株だけが花を咲かせることから、花が咲くと縁起よく吉事があると昔から伝えられています。

モミジやコハウチワカエデ・ニシキギやドウダンツツジなどの紅葉は十一月下旬が見頃となるでしょう。秋の青空に赤く染まったモミジの葉、そして松の緑とのコントラストが色鮮やかに調和します。茶屋「和楽亭」でお抹茶とお菓子を戴きながら四季の移ろいを感じて下さい。



藤 袴



方徳資料館

■ 四神と四神旗

四神とは四方を司る神、すなわち東の青龍(せいりゅう)、南の朱雀(すじやく)、西の白虎(びやくこ)、北の玄武(げんぶ)をいいます。高松塚古墳、キトラ古墳の石槨の壁画に色彩鮮やかに描かれているのが発見された大きな話題になりました。

むかし、朝廷で元日朝賀・即位大礼などの折りに威儀をととのえるため、大極殿(だいこくでん)または紫宸殿(ししんでん)の庭に、四神を描いた四つの仗旗(じょうしき)が立てられました。これを四神旗といい、現在でも神社の殿内装飾として見つけられます。

四神には、それぞれ司る方位、季節、象徴する色があります。青龍は四方は東、四季は春、色は青、五行は木となります。朱雀は南・夏・赤・火。白虎は西・秋・白・金。玄武は北・冬・黒・水となります。なお五行説では、中央に黄龍を加え土用としています。

平安京は四神相応の都、四神に守られた都です。北に玄武の山、東に青龍の川、南に朱雀の池、西に白虎の街道をもった理想の土地と言われ永く繁栄してきた都です。



青龍

兼務社だより

小動神社例祭斎行

紫紋幕奉納される

十月十七日午前九時より小動神社の例祭が斎行されました。

同神社ではこの佳辰に併せ紫紋幕一張が奉納されました。

この奉納は、脇善治責任役員始め、橋田肇・小林明・宇都木善明各総代が退任するに際して他の総代の方々



にもご賛同戴き、これまでの御神恩に感謝し御社頭の

繁栄を祈念して奉納されたものです。

「奉納賜りました各氏には、これまでの功績と今回の奉納に対し、感謝状と記念品が贈呈されました。

菊花・写真展開催のご案内

本年で四十二回を迎える寒川神社菊花・写真展が当神社境内にて、十一月十日～二十三日まで開催されます。

第三十一回 自衛消防隊 消火技術大会優勝



去る十月十九日、さ

むかわ中央公園に於いて第三十一回寒川町自衛消防隊消火技術大会が行われました。

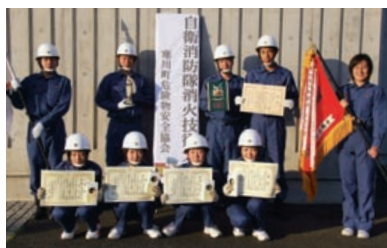
当神社からは男子・女子四名ずつの職員が



出場。日頃の訓練の成果が遺憾なく発揮され、屋内消火栓操作女子の部では総合優勝と全員が最優秀個人賞を獲得。男子の部は小型ポンプ操作法で準優勝。共に高成績を収めました。

今後はこれを契機に

全職員の防災に対する意識を更に高めてまいります。



寒川病院だより

☎0467(75)6680 寒川町宮山193
http://www.byouin.samukawa-jinja.or.jp/



診療日

	月	火	水	木	金	土
午前						*
午後						

* 印...木勢医師の外來日
* 土曜日の外來は、第2・第4外來
* お電話にてご確認の上、ご来院下さい。

問 講 内 と
合 師 容 と
せ 師 容 ころ

医療講演会のご案内

十一月十七日(火) 午後二時～三時
寒川神社参集殿
入場無料(申込み不要)

「スポーツと健康のはなし」
整形外科医長 橋本吉登
電話〇四六七五五六八〇(寒川病院)

私は大阪の関西医科大学卒業後、同大に留学して学位取得後、フランスを離れ、東京の国立がんセンターに腰を下すことになりました。相模の地でもともと、日本語としては大阪弁しか話して来ると、大阪弁では通用しないことも多く、「郷に入っては郷に従え」とも、こちら流の話し方もマスターし、今では大阪出身だとわからないくらいに、この隠れ関西人になつてしまいました。

以前から外国語が好きでしたから、私の世代で医学が好きな方から、英語のドイツ語、フランス語、ドイツ語、韓国語、中国語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、英語など、いろいろと勉強しています。

この講演会では、私がこれまで学んできた外国語の勉強法や、仕事で役に立つ単語やフレーズ、そして、海外で働く際の文化の違いや、コミュニケーションのコツなどについてお話します。



木勢医師よりご挨拶

(宗)寒川神社 寒川病院
外科医長
木勢 佳史

いろいろな面で世界をリードする時代になってきました。

特に、内視鏡の診断、治療レベルは世界一になりましたし、事実、海外の内視鏡学会でも、以前は西から知識が東へ流れてきたものでしたが、今は東から流れてくる。また、医療器械も以前はドイツ製、アメリカ製が優勢でしたが、今では日本製の器械が世界を支配しているようです。

その高度なレベルの医療を寒川病院で、胃、腸、乳腺の病気を中心に実践しようとするのが、手術が全てと門外漢の立場ではありません。

手術が全てと術の立場に立つた医師が大切で、手術は治療の最終手段であるべきだと思います。

以前の診断手段はもっぱら、視診、触診、聴診でした。今はCT検査に始まり超音波検査、内視鏡が普及し、画像の開発と技術進歩によって、的確な診断を導きやすくなりました。

今までは大学組織で頑張ってきたのですが、そろそろ相模の地に根を下ろして落ち着き今までの培ってきた術をもつて地域社会に貢献して来た技術者と思えます。内視鏡を含めた消化器病、乳腺疾患、一般外科疾患に、またその他のことでも気軽に相談頂ければうれしいです。

伊勢神宮・桜山八幡宮 参拝旅行のご案内

◎期 日：平成22年3月7日(日)～3月9日(火)
◎募集人員：120名 (定員になり次第締め切ります。) バス3台
◎参加費：45,000円 (交通費・宿泊代・食事代・傷害保険料
伊勢神宮御神楽料・御神酒拝戴等一切を含みます。)

日次	月日(曜)	行 程	宿泊地
1	3/7 (日)	8:00～8:30 各地より→寒川神社→浜松市内(昼食) 15:30～16:30 伊勢神宮外宮(自由参拝)→鳥羽【宿泊】 17:10頃	鳥羽 シーサイド ホテル
2	3/8 (月)	8:00 8:40～11:30 鳥羽→伊勢神宮【正式参拝】おかげ横丁(買物) 12:30～13:15 16:50頃 龜山市内(昼食)→高山【宿泊】	高山 グリーン ホテル
3	3/9 (火)	8:00 8:10～10:00 高山→桜山八幡宮【正式参拝】・朝市等市内散策→ 11:00～12:40 19:40頃 白川郷(散策・昼食)→寒川神社及び各地へ	

◎お申込み・お問合わせは 寒川神社 0467(75)0004へ

人 事

- ◆退職
 - △寒川神社▽
 - 権禰 望月 康麿
 - 権禰 宇田 利幸
- ◆新採用
 - △神社本庁
 - 事務局長 渡邊マツ子
 - 神慮苑勤務を命ずる 平成二十一年十一月一日
- ◆巫女を命ずる
 - △寒川病院▽
 - 看護師 佐藤 明美
 - 寒川病院勤務を命ずる 平成二十一年十一月一日
 - △神慮苑▽
 - 森田 友美

冬川俳壇

口笛の風となりゆく夕花野
 花野より花野へわたる橋一つ
 大花野ハングライダー脚見えて
 旅半ばついで詣りや神の留守
 どこからも見ゆる鳥居や刈田道
 直会と読めぬ人あり新走
 お握りは塩味が良し今年米
 行商の荷の片隅に通草の実
 売りし書に淡き悔いあり菊臙
 金木犀丸く刈られて丸く咲く
 虫鳴くと言葉少なに厨妻
 犬抱いて応対に出る秋の風
 移ろいし雲の影追い花野道
 山国に鯉を食いをり神無月
 山の雲ゆつくり移る蕎麦の花
 松手入れ復元したる長屋門
 何もせず何も語らずつすら寒
 どこまでも透き通る風秋の浜
 鴨が来て落ち着く里の川となり



金指 月光
 相原 白緒
 四ツ車梢月
 天沼 子平
 芹沢 徳光
 根岸 君子
 菅沼 保幸
 伊藤 公一
 飛石 槿花
 菅沼うめの
 岡田風呂釜
 高橋はるよし
 千葉 静香
 金子 つち
 山本 朝子
 倉谷 節子
 宮入 つる
 竹村真砂美
 皆川志んこ

十一月 手水舎奉掲

明治天皇御製

新しぼり神にささげて國民の
年ある秋をいはふとぞきこ

相模詠草

イチローの二千本安打達成す日本人初と聞くがうれしき
 若きらに仕事なき世にしじばばもまだ働けと言つのか総理
 花よりも緋の鮮やかに葉鶏頭真夏の朝の庭にさやけし
 虫の声月夜に照らされ何処なりこころあたりか訪う草の宿
 夕暮れに蝉とコオロギ大合唱四季の移ろい庭から聞こゆ
 台風に今日の一日のスケジュール皆無となれりゆるり休まん
 我が庭を住家としたるかかなへびは吾の出ずる度駆け出で未たり
 梅雨晴れの裏丹沢の写生会レモンイエローのシャツ似合ふ君
 陽が沈み遠くに見える山脈も墨絵ほかしの霧をまとえり
 満開の季のがさじとサルスベリの蜂の武蔵は押取り刀
 この町の工場地帯に働く人ら大山富士山眺め励める
 子供らのはじける笑顔に浮びくる弁当箱の寒天作り
 老いまさる吾をいたわり染しげに爪染めくるる孫むすめやさし
 敗者泣き勝者も流す球児らの涙きらきら青春の色
 ゆとりある心に見ればいつも見る同じ花さえゆかしく見える
 風鈴と金魚に鈴虫わが里に代々伝わる天然の涼
 ヒロシマの影わらわらと立ち上り声なき声に叫ぶ八月



出町 安子
 齋藤くにお
 宇田川時子
 浜田 寿子
 山口 幸子
 山根喜美代
 安藤 慧
 鈴木 助晴
 川島恵美子
 吉田マツ子
 工藤 光子
 稲畠 治江
 三留とく子
 天利 春枝
 岡元 芳子
 龜山 文子
 講師 杉本 照世

表紙写真説明



平成二十二年正月皆様を
お迎えする干支ねぶたです。

日々彩りが変わる野山の景
色。赤色、黄色、肌色、茶色。

何色あるか分からない。大地
が織り成す素晴らしいグラデー
ション。人々は、その美しさ
について惹きつけられる。(一)